

VII 山梨県の緑の保全・創造についての考察

Betrachtung über Schutz und Schaffung der neuen Vegetation in der Präfektur Yamanashi

自然環境とくに植生で指標される生物社会に対する人間の干渉の程度とその敏感度についてみると、同一の潜在自然植生域でも自然度の高いところほど人間の干渉に弱い。したがって、海拔1,600m 以上のシラビソ-オオシラビン群集域の自然林が広く残されている地域から、県民の生活域の中の富士川、笛吹川沿いなど自然植生が残されている斜面、水ぎわなど自然度の高い植生は人間の影響にきわめて敏感である。したがって県下に残存する自然度の高い植生域のとりあつかいはきわめて慎重でなければならない。

自然度の高い植生は、群落が存続し、健全に生育する程度以上の面積を確保し、“自然の聖域”として人間の干渉からの隔絶・保護を計る。道路、各施設、遊歩道など開放景観域と接するところでは、それぞれの立地の潜在自然植生に応じたマント群落やソデ群落を積極的に形成してやる。

大弛峠付近の自然林、山小屋等の宿泊施設、散策路、車道との関連についての望ましい配分模

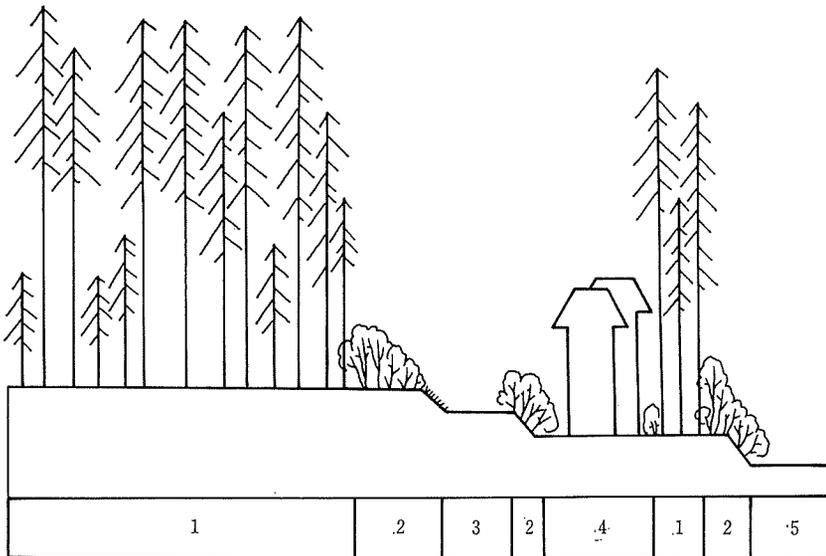


Fig. 42 シラビソ-オオシラビン群集域の修景
Standortsgemäße Rekonstruktion mit der Vegetation im
Abietum veitchii-mariesii-Gebiet

- 1: シラビソ-オオシラビン群集(自然植生) *Abietum veitchii-mariesii*(Natürliche Vegetation)
- 2: マント群落およびソデ群落 Mantelgesellschaft u. Saumgesellschaft
- 3: 散策路 Spazierwege
- 4: 諸施設等 Nötige Einrichtungen
- 5: 車道 Autowege



Phot. 46 野呂川林道延長のため、破壊された森林（シラビソ-オオンラビソ群集）。
Durch Verlängerung der Norogawa-Forststraße zerstörter Wald (*Abietum veitchii-mariesii*).

式が Fig. 42 で示されている。シラビソ-オオンラビソ群集にまとめられるシラビソ、トウヒ、オオンラビソ、コメツガなど亜高山性針葉樹が優占する自然林は、ブナクラス域やヤブツバキクラス域などのように温暖な気候条件下に生育する自然林と比較して種組成、群落構造が貧弱、単純となっている。植生の作りからもよりきびしい立地条件であることを示している。したがって散策路についても安易な設置は避けて、できるだけ広い面として残存自然林を周辺部とともに“聖域”として残す。その周辺に散策路などの最少限必要な施設を設ける。散策路と自然林との接点には林縁植生（マント群落およびソデ群落）を確保し、周辺の人為的な各種の影響が林内におよぶことをできるだけさける。マント群落やソデ群落は、その立地が許容する潜在自然植生および代償植生の構成種から選ばなければならない。林縁群落の確保と郷土種から林縁群落が構成されなければならないのは、林縁群落が自然林を保全する効果が最も大きく期待され、より確実である。その結果、補植や施肥など管理の手間がはぶける点があげられる。大弛峠付近などシラビソ-オオンラビソ群集域のマント群落の主な構成種としてはクマイチゴ、ナワシロイチゴ、トガスグリ、コマガタケスグリ、ハコネウツギなどがあげられる。

八ヶ岳山ろく、都留市南部、木賊峠など県下のほぼ全域にわたって指摘される点として、道路設置にともなったのり面の保全については、海拔700~1,600m前後のブナクラス域について考察

されている。道路計画にあたって、ヤシャブシ群落、フジアザミーヤマホタルブクロ群落、ヤマハンノキ群落、タマアジサイーフサザクラ群落など崩壊性の強い立地、ヒノキ、コメツガ、ホンシャクナゲ、ウラジロヨウラクなどの生育する尾根筋の不安定な立地、現在水田に利用されていたり、ヨシやハンノキが生育する湿潤な立地をできるだけさけるように路線の決定がなされなければならない。路線上に上記のような植生の生育する立地がある際には、他のより安定した立地以上の経費をついやしてでも、路線の安定・確保が要求される。路線決定の基礎資料として現存植生図および潜在植生図の活用が勧められる。

〈道路設置など積極的利用に対し、できるだけさけるか留意を必要とする植生〉

——留意点については群落単位の項を参照——

・コマクサーイワツメクラス域およびコケモモートウヒクラス域。この植生域の各群落は、基本的にすべて自然度の高い植生として保全が計られなければならない。

- ・コカンスゲーツガ群落
- ・ウラジロモミーコメツガ群落
- ・シノブカグマーヒノキ群落
- ・タマアジサイーフサザクラ群落
- ・ヤシャブシ群落
- ・ミヤマクマワラビーシオジ群落
- ・タチコゴメグサーミヤコザサ群落
- ・スズランーシモツケソウ群落
- ・ハンノキ群落
- ・ウキヤガラーマコモ群落
- ・ヨシ群落
- ・オギ群落
- ・ツルヨシ群落
- ・ヒルムシロクラス

(・ミゾソバ群落他)

道路の設置・拡張にともなって生じた裸地の植生による修景は、現在までそのほとんどが、ウイーピング・ラブ・グラス (*Eragrostis curvula*)、ケンタッキー31・フェスク (*Festuca arundinacea*)、ウイーピング・レッド・フェスク (*Festuca rubra*)、イタリアンライグラス (*Colium multiflorum*)、レッド・トップ (*Agrostis alba*)、シロツメクサ (*Triforium repens*) など外来牧草で占められている。これら外国産の牧草の大部分はヨーロッパなど諸外国で長い年月をかけて定期的な採草、放牧など一定の人為的条件につり合って存続してきた牧草であり、原産地においても一定の人為的条件が継続的に加えられることによってのみ持続する。我が国においてこれら外来種群の多くは年数を経るにしたがって活力が衰え、長い年月の存続は望めない。したがっ

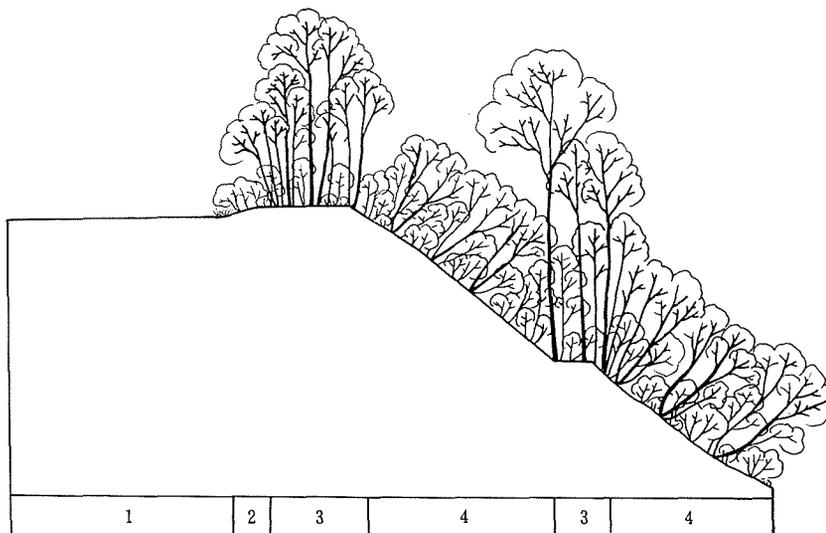


Fig. 43 道路のり面の修景

Grüne Rekonstruierung des Hanges entlang der Straße im Gebiet des *Corno-Fagetum crenatae*

- 1: 道路 Autostraße
- 2: マント群落およびソデ群落 (林縁植物群落)
Mantel- und Saumgesellschaft (Waldrand-Gesellschaft)
- 3: クリーミズナラ群集 (将来高木林を形成する種を中心に植栽する)
Arten des *Castaneo-Quercetum crispae*, die in Zukunft standortsgemäße Hoch-Wälder bilden werden.
- 4: ヤシヤブシ群落他 (ニシキウツギ, ヤシヤブシ, ミヤマハンノキ, イヌコリヤナギなど崩壊性の強い立地に先駆的に侵入する種を中心に植栽する)
Alnus firma-Gesellschaft u. a. (hauptsächlich auf der Bodenrutsch-Auflage als Pioniere-Sträucher vorkommende Arten wurden ausgewählt)

て数年後には枯死し、再び裸地化することも多い。一般に郷土種との交代がスムーズに行なわれないために、裸地が再び郷土種によって緑化されるまでの間に降雨などによる斜面の崩壊や土砂の流出する危険が生じ、再緑化の処置が必要になってくる。

我が国の豊富な植物相 (Flora) は、ガレ地や裸地に先駆的に侵入し生育する植物種群も各潜在植生域に応じ多数ある。立地条件の差異や各潜在自然植生域に応じたマント群落およびソデ群落の構成種による緑の回復・緑の環境創造は、従来自生植物の種子の入手の困難さと、外来牧草と比較して初期の生育が遅く急速緑化にむかないという難点も指摘されていた。しかし、郷土種の利用は、その土地の立地条件の差異に応じて生育する種群であるためもっとも確実で、人間の管理が最低限で持続し、順次一定の遷移段階に応じたより多層群落を形成する。したがって、将来の維持費がかからないで、理想的な緑の環境を創造し保証を必要とする、のり面の修景、緑の環

境創造にあたっては、出来るだけのり面の傾斜をとり、いわゆる犬走りを必要に応じて段階的に
つくり、将来高木に生長する樹種の幼苗や種子を密植した植栽を帯状に設定する。斜面の植栽も、
単木の植栽による土砂の移動の起こりやすいこと、枯死率の多いこと、養分流出などの点を考慮
して深根性の将来亜高木、高木になる種群を中心に低木類を縁どりの的に密植する。